此境之儀、至播州令乱入候刻、三木・明石・高砂對此方一味候。相殘敵意之者取圍候條、不可有落居程候。同諸警固、至大坂表差上、津々浦々令放火候之處、信長父子三人彼表馳向、日夜之干戈、毎篇此方大利而已候。如此引下攝播之間釣留候之條、其表之儀謙信被仰談、御手合此時候。於御延引者、不可有其曲候。此度從公儀雖可被仰出候、御座所程遠候間、先爲兩人申述候。猶委細者曹源寺・佐々木源兵衛可申候。恐々謹言。

卯月廿三日（天正六年）　　元（吉川）春　在判

隆（小早川）景　在判

加州御旗本中

御番所

（吉川元春・小早川隆景の播磨に入り、三木城主別所長治の之と和して織田信長に抗したるは天正六年三月に在り。故に本文書をこの年に係く。而して上杉謙信は既に三月十三日を以て歿せしなり。）

五月三日。柴田勝家、伊達輝宗の臣遠藤基信に、その去年以來加賀・能登・越中平定に着手せることを報ず。

【建勳神社文書】　山城　　一六一二

雖未申通、北國表爲警固越前被居置候。去年加州・越中・能州之儀、以覺悟平均申付候。尙奥々計策半候。然而其國別而御馳舞由候。何茂被對天下入魂之儀候。上方於御用之儀者不可有疎意候。隨而雖輕微之至候、褶三端進之候。寔書狀之驗迄候。屹与音信雖可申、此者下國之便風式候。向後切々可申述候。都鄙樣子委曲石神博士可申述候。恐々謹言。

五月三日（天正六年）　　勝（柴田）家　在判

遠藤山城守（基信）殿

御宿所

八月十六日。織田信忠、柴田勝豐に、その加賀に出陣せんと企てたるを賞す。

【長　文書】　金澤　　一六一三

芳墨、并爲音信料紙到來、祝着候。仍播州表之儀如存分申付、去十一日納馬候條、時宜可心安候。將亦來廿日至賀州表出陣旨、尤候間、重而吉左右相待候也。

八月十六日（天正六年）　　信（織田）忠　在判

柴田伊賀守（勝豐）殿

（本文の出陣は遂行せられざりしなり。）

八月十六日。珠洲郡正院城の長景連、上杉景勝の臣吉江信景に、その景勝に對して忠誠を盡くすべきことを誓ふ。

【竹田文書】　羽前　　一六一四

敬白起請文

右意趣者、無二無三奉守上樣（上杉景勝）御前候事。

一、從三郎殿樣（上杉景虎）被成御書候へ共不及御請、惣体上樣へ御敵對のかたへ不致通融候事。

一、孝恩寺（長連龍）へ不致通融候事。

付、鯵坂備中守（長實）色々讒言申之由候間、如此申上候事。

若此旨於偽申者、上梵天帝釋四天（ヤ、）大王、惣而日本國中之大小之神祇、殊日光月光・摩利支尊天・八幡大菩・春日大明神・諏方上下大明神・愛宕山大權現・飯縄大明神、別而彌彦・二田大明神・三崎兩社大權現・石動山五社權現・天滿天神之蒙御罰、於現世者弓箭冥加永廢、於來世者可墮在無間者也。仍如件。

天正六年
八月十六日

長　與一
景　連　在判

吉江喜四郎（信景）殿

八月十七日。上杉景勝の臣長澤光國、鳳至郡中居村の眞清田三右衛門に、その降を容るべきを告ぐ。

【中居三右衛門傳書】　鳳至郡　　一六一五

鈴因（鈴木因幡）へ切書披見候。昨日之事者、各穴水（長連龍）へ令一味ニ付而、放火併百姓以下討捕候事者、舟手之者共之働ニ候。是は甲之人數候。光國手前之人數、陸之働候間、中居村之百姓討捕候事、一圓ニ不知候。然者各可罷出候由尤候。但一途穴水之手切、無二對七尾（鯵坂長實）於可令馳走者、得其意候て